

学校図書館の奉仕活動の実践

加藤 貞夫 ・ 高橋 恵 亮

I ま え が き

学校図書館が学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であると、昭和29年4月1日学校図書館法が施行された。これは学校教育の進歩発達に伴い、学習指導上の必要に応ずるために、きわめて広範囲の資料を備えなければならなくなったからである。しかし、たとえ学校図書館が義務付けられても放置するならば、徒らにほこりの積る倉庫としかならず、果ては無用の長物ともなりかねないであろう。このような学校図書館化を防ぎ、より高度に機能を発揮するために、学校図書館が常に創造的工夫を重ねつつ、より積極的に奉仕活動を推進することにあると考える。

奉仕活動とは、図書館を美化し生徒たちの図書館利用の便宜をはかる活動と解され易いが、ここで述べようとする奉仕活動は、もっと広い意味をもつものと考え。すなわち、学校図書館資料の整備を基礎として館内および校内のあらゆる資料整理の統一化と一貫化により、より能率的な学習環境設定のため、学校図書館がより有機的な働きがけをすることも奉仕活動の一環であるという立場をとるものである。さらに本校の特殊性として、大学教育学部附属学校である。これは教育研究機関としての役割をもつことで、本校図書館の奉仕活動も当然その面での重要な任務があると考えなければならない。

このような二つの観点から、本校図書館が迎ってきたあしあとを思い返し、本年度とくにとりあげた奉仕活動の実践を述べ、さらに今後の発展への構想まで及びたいと思う。

II 奉仕活動へのあしあと

本校図書館の創立は昭和23年4月で、敗戦後の混乱期であり、当時の図書は寿命すでに尽き、学校が豊川から名古屋に移転したのを期に本格的な再整理を始めた。それは丁度、前述の学校図書館法施行の年でもあった。運動場もない校舎の一室で、一冊一冊の再整理は遅々として進まず、少ない資料をただ歎いてばかりいた。けれども兼用図書室といえ、常に清掃に意を用

いて入室者へささやかな奉仕をしたものだった。しかし再整理は坦々として続く泥沼を歩きもがくが如く、あるときは賽の河原の石積のような気持と戦いながら進むのに似ていた。同じ年より勇躍として東海三県学校図書館コンクールに参加したが、郵送されてきた参加賞状を額に入れた。これも今にして思えば感なきに耐えない。けれども、この学校図書館コンクールは大きな希望と力とを与えてくれた。すなわち、その詳細な自己評価報告書がともすれば見落とし勝ちな点を指摘し、改善への目標と勇気とを示してくれたことである。昭和32年学校図書館概要を曲りなりにも発行するに至り、今まで漠として握みどころなかった学校図書館に、有形無形のまとまりというものができてきたと思う。その年、良書百選も発行し、初回改訂を昭和33年に行った。そうしてだんだん本格的・積極的な奉仕活動へと動きを続けてきたのである。

III 奉仕活動の実践

過去の本校図書館の歩みを土台として、本年度は次のように奉仕活動を実践した。

A 図書資料面

① 良書百選の再改訂（別表参照）

コミュニケーション花やかなテレビ時代において、豊かな人間形成への適切な読書の指針を示すことは大切なことであろう。このために良書を推せんするという試みは、いろいろな所で、いろいろな形で企てられている。本校では本校としての教育方針と生徒の実情から帰結される中必的な読書にふさわしい指標を与えることはできないかと考えた。勿論、現在の百選がこの条件を充分満足するものとは断言できないが、再三再四の調査と考察によって順次高めて行きたいと思っている。

再改訂の具体的順序は次のようである。すなわち、先の改訂を基にして、いわゆる良書と呼ばれていても、本校の実情にそぐわない図書もあった。それで高校一、二年生および中学三年生に「高校時代・中学時代に読んでおきたい本をあげなさい。」の読書調査と、全国学校図書館協議会の必読書そして前の良書百選の

調査とを参考にして、校内研究会で討議した。さらに各教官の推せん書を加え、とくに推せんの図書には〇印を付けてもらった。これらの資料を集計し、さらに本校図書館にある蔵書を実際に手にとって再検討した。内容程度はもとより、装幀、印刷まで検討し、とくにブックカードの記録によって、読者層を確めた。百選の枠付けをするに当っては、教科学習との関連性を重んじて、小説一辺倒を避け、約6割を非小説に当てた。また部厚く、数巻に亘るものなどは割愛して、新書判くらいの図書を多く採用した。これは、従来の考えからは異端であるかも知れないが、親しみ易く手軽で、しかも価格も座右の書としての購入も比較的簡単という理由である。この結果、中学用では「小国民のために」と「岩波少年文庫」を、高校用では「岩波新書」を大幅にとり入れた。リストは夏休み直前に渡し、休暇中の読書生活に役立つようにした。その後、百選の特設書架を設けて、「中学良書」「高校良書」の標しも各図書に貼り、積極的な利用指導を行っているが、利用度多く好評である。

今後の計画としては、教科学習の教養書を精選して、教科毎の推せん書目を作って、百選の枠を内容的に拡大して行きたいと考えている。

② 母親文庫（別表参照）

青年期の心理の複雑さとはげしさ、そして反抗的傾向など、青年期の子をもつ保護者の相談相手の一助となるような図書を、指導部と協力して集め、母親文庫としたものである。「悩みと反抗」など約30冊余りで、「学校だより」で家庭に知らせたが、利用面は今後に期待したい。

③ 台風記念文庫

昨年度の伊勢湾台風災害救援の奉仕に高校生が出動し、名古屋港埠頭における土壌造りなどに対する謝金で、光文社の「カップボックス」を精選して、「台風の子」など約100冊余り購入したものである。親しみと魅力に富み、生徒たちの利用多く、特設書架に残っているものが少ないという盛況さである。

④ 臨海文庫

夏休みの5泊6日、中学校の臨海学校で試みたものである。海浜で読むのにふさわしい図書、「子供は見る」など岩波写真文庫約100冊を選び出して、出発の前日、参加生徒に1冊宛貸出しして、現地で集めて臨海文庫としたものである。写真という気易さも手伝って、利用者多く、初めての試みとしては、労少くして功多かつたものと思われる。

今後は高校の林間学校などでも行ってみたいものである。

⑤ 学習参考書の推せん目録（別表参照）

学習参考書（以下学参書という）を学校図書館におくと、往々にして紛失という忌わしいことにぶつかる。一方、基本的図書の購入で手一杯だったことも手伝って、学参書の購入は見送りの状態であった。ただ、学参書の目録をおいて相談に応じていた。しかし、生徒たちの一大関心事はなにはともあれ、進学であり、テストである。この学参書の選択に、適切な助言指導が加えられないことは、学習指導上片手落ちともなりかねない。たとえ相談を受けても、それぞれの生徒に適書を指導することは困難である。すなわち陸続と出る学参書から、なんらの手がかりなしに選択することのむづかしさである。そこで、学校図書館が仲介となって、契約書店から主要学参書を一括借り受け、その教科毎全員の教官の協力で、実物を比較検討して精選し、対象学年、難易、使い方などを注として加えたりリスト作成を依頼した。その後のプリントなど事務処理は、一切学校図書館で担当奉仕してこの推進と統一をはかった。本年度は英語科、数学科のリスト（中高共）を試案し、推せん学参書は特設書架においた。さらに今後、英数以外の教科に広めたいと考えているが、早急に他教科でも実現してほしいと要望が出ているくらいである。

また、学参書の寄贈を呼びかけている。これは卒業学年に、進学後使用済みの学参書を寄贈させることで、これは後輩へのよい送り物となり、意義深い企てになりそうである。

なお、この学参書の推せんや、先の良書百選にしても、豊富な資料を沢山の人の協力により、慎重に検討することができる。それでいうまでもないが、僅かな予算を計画的に、かつ重点的に複本まで並えるのに有効な方法であった。

B 図書以外の資料面

(1) インフォメーションファイル

最新の図書以外のパンフレット、切り抜きなどの資料を計画的に収集して、組織付け、利用者に迅速に提供する資料群をインフォメーションファイルという。前述したようにマスコミュニケーションを積極的に、学習活動の多角化のために利用しなければならない。本校ではすでに後述するよう、雑誌の積極的収集を実施しているが、それ以外のパンフレット類には未着手であった。鋼鉄製のファイリングキャビネットを毎年1基ずつ購入して、現在では4基になった。それで宿願だったファイルの件名標目表を作成して、実施に踏み切った。本校の実情にそい、集中資料は後述のよう

別個の件名表を作り、すべてABC順配列とした。

① インフォメーションファイル

ここにおけるファイルとは狭い意味であって、集中的資料を除いた資料すべてを総合的にファイルするものである。件名も一応必要なものから付けて行き、順次追加して行くことにし、相当思い切ってやることにしている。

② 進路資料

大学・高校への進学資料および就職資料を総合して入れる。入学案内など今までは、送られてきたままになっていて、余り利用されていなかったものが、非常に勢で陽の目をみたという形容があてはまるような利用状態で、ファイルを作ってよかったというものの一つである。将来は、指導部と協力して、就職資料をもっと計画的組織的に収集してみたいと考えている。

③ 生徒会・クラブ資料

この項目を設けた理由は、生徒会クラブ関係の資料が、とかく逸散しやすい現状である。それで、この窓口を設けて、この方面の資料の収集に統一性と一貫性をつけたいと考えた。生徒の記録・作品をもっと生き生きとした状態で残しておきたい。すなわち、学校新聞・校誌・文芸誌、クラブ誌および文化祭・体育祭のプログラム類に至るまで。ともに生徒部・視聴覚部の協力によって万全を期していきたい。

④ 観光・地図資料

教官および保護者からの寄贈（「学校だより」で依頼）によって観光資料は相当数になった。ファイルは地方別として、とくに資料数の多い、東京、日光や京都・奈良などは別個の件名を設けた。

地図資料も比較的多く、観光資料とは別にしている。

⑤ 各科教育研究資料

詳細は後述する。

(2) 視 聴 覚 資 料

レコード、スライドなど一応資料室に集め、第二読書室を視聴覚教室に兼用することによって、その方向に向っているものの、組織的整理は未着手である。視聴覚部の協力により、校内資料の統一化をはかりたいと考えている。

資料活用面としては、卒業記念品のステレオ装置で、館内でレコードコンサートを3回開いた。そのとき手製の「しおり」を渡した。また、読書週間中に、読書についてのラジオの録音を、昼食時に校内放送を試みた。今後は、視聴覚的方法での活動を工夫活用する要があると思っている。

C 教育研究資料面

前述したように、本校が大学附属学校として、教育実践の研究機関である以上、当然、それにふさわしい教育研究資料の整備、充実は重要な面である。

① 教育研究用図書

教材研究を含めて、教育研究用図書は極めて貧弱な状態であるといつてよい。少い研究費の大部分を図書費に当てているが、早期に理想的充実はむずかしい。それで、学内ではすでに試みていることであるが、大学附属図書館、教育学部図書室、公共図書館、県市研究機関およびアメリカ文化センターなどとの連けいを、計画的組織的に保つために、学校図書館が機動力を発揮するようにしたい。

② 教育関係雑誌

一定期間教官室の雑誌架に展示したのち、そのバックナンバーを資料室に類別しておき、適宜の合本を実施している。生徒用雑誌についても必要なものは同様合本している。

③ 研究紀要

本校の研究紀要をはじめ、各地から寄贈されてくる研究物は、とりあえずインフォメーションファイルの研究資料の個所に地方別にファイルしておく。適宜の冊数になったとき合本を行っている。前述の雑誌と共に紀要の内容を、⑥で後述するようなパンチカードを利用して、資料の活用化をはかりたいと考えている。

④ 教科書

長い年月の間に相当量になった。だんだんもてあまし気味になったので、次のような整理を行った。すなわち、各教科書の一種類ずつを、保存用として選び出し、巻数のあるものは適宜の冊数に合本して、保存印で明示した。古教科書は教育内容、カリキュラムの変遷を知る上に、好個の材料となる。なお整理に当たっては、生徒たちの多大な貢献によっている。

⑤ 教育研究資料

前述のファイルの中に、教科教育資料、学校経営資料、生徒個人資料と前述の研究紀要を一つのキャビネットに納めている。とくに、教科教育の面での最新資料を充実したい企図をもっている。

なお、生徒個人指導資料は指導部に協力して同様保管している。

⑥ 理科教育文献センター

上述したように、各科教育資料充実の一方途としてとくに理科教育の文献収集について述べる。文献を組織付けするために、先ず理科教育資料の分類表を

学校図書館の奉仕活動の実践

NDC（日本十進分類法）を基準として試案した。この表で、現在までに日本理科教育学会誌「理科の教育」と同学会東海支部「研究集録」の文献をパンチカードで整理してみた。このため多角的にしかも迅速に文献発見が容易になった。将来は東海地区の各種の理科教育団体を含めて、その資料のパンチカード化を研究して、地域社会の理科教育研究のために奉仕しようと考えている。その意味で同上学会東海支部より、本校が東海地区理科教育文献センターとなるよう委嘱されている。

なお、日本理科教育学会で昨年秋の全国大会(大阪)で、「理科教育分類表委員会作成の件」が決議された。それで理科教育資料の本格的整理実現も間近かになってきた。

D その他の面

直接的、間接的の面も含めて列挙すれば、次のようである。本校図書館は、古い校舎と少い予算の条件の中にあつて、以上のようないろいろな活動を要請されている。それで現在の図書館環境をより高度に活用するために、次のような工夫をしている。図書館の部屋が四室になっているので、それぞれに異った機能を与えている。リーディングセンターの第一読書室、リフレッシュセンターの第二読書室、ライブラリーセンターの司書室と資料室にわけている。

次に特色とするところは製本の実施である。学校図書館の利用がひんぱんになればなるほど、本は痛むし破損はまぬがれない。この一步一步前に、めだたないように修理製本が、実に手豆に実施してあることである。現在では事前製本に意を用いるし、先に述べた雑誌等の合本、さらに校内諸書類の整備にまで積極的な奉仕を行っている。

昨年、卒業生に対してヘルマンヘッセの文と共に読書個人カードを送ってよかったので、これからも実行したいものの一つである。

本年度初めての試みであったが、教育学部学生の教育実習の一環として、とくに学校図書運営について、

紹介と案内を兼ねて指導を行った。ささいなことであるが、学校図書館の奉仕活動の一端となったことは、よろこばしい。

昨年度から教官会議毎に「館報」を発行している。ガリ版刷りの貧弱なものであるが、図書館活動の理解と協力のために、種々の計画と連絡、新刊書、寄贈書などの報告など、奉仕活動の推進力となっている。

IV あとがき

マスコミュニケーションの影響は学校において指導計画を立て、指導法を考えていく上に無視することのできないまでとなっている。図書以外の資料と図書資料とをあわせて能率的に管理運営するためには、学校図書館がこの役割を負い、あるいは学校図書館を中心にして諸教材の管理運営について学校として総合的、全体的な計画を樹てるべきであると、「図書以外の資料の整理と利用」に述べられてある。いいかえればこれからの学校図書館は、従来の書庫的、貸本的学校図書館から脱皮して、より高度な有機的機動力をもつ資料センター化に向いつつある。本校図書館においても何等かの意味で、この方向に近づきつつあることを自認する。

このために、より多くの人々の協力と要望に応える学校図書館造りであり、つねに創造的、ダイナミックな奉仕活動を展開していくことであるとする。

おわりに当り、本実践の推進に終始よき協力者であった司書室の杉浦三良事務官と萩野逸子嬢に謝意を表したい。

参考文献

- 文部省 学校図書館運営の手びき(1959)
 〃 図書以外の資料の整理と利用(1960)
 加藤貞夫 理科教育資料分類表の作成(1959)
 本校紀要第5集
 理科教育資料分類表の作成—第3報—
 (1960) 本校紀要p.p.153~157

良書百選 (中学用)

書名	著者	書名	著者	書名	著者
〔1〕 哲学・宗教 (9)		7 考えること生きること	古谷綱武	13 綴方風土記	平凡社
1 ギリシャ・ローマ神話	バルフィンテ	8 後世への最大遺物	内村鑑三	14 人間の歴史	イリソ
2 君たちはどう生きるか	吉野源三郎	9 ヨルダンの流	小出省吾	15 マルコ・ポーロ旅行記	中沢公平
3 友情 しんせつな仲間	羽仁説子	〔2〕 歴史・地理 (19)		16 黄河の水	鳥山喜一
4 原爆の子	長田新	10 世界の国々	国民図書刊行会	17 大昔の人の生活	和島誠一
5 心に太陽をもて	山本有三	11 我が国土	〃	18 世界の歴史	毎日新聞
6 宗教と私たち	岸本英夫	12 世界のこども	平凡社	19 キュリー夫人伝	白木茂
				20 ガンジー伝	イトン

一 般 研 究

21 野口英世	高山 毅	47 ろうそく物語	フアラデー	73 ビルマの堅壁	竹山 道雄
22 ナンセン伝	ホル	48 原子力の話	佐々木宗雄 他	74 夜あけ朝あけ	住井 才久
23 豊臣秀吉	桑田 忠親	49 渡り鳥	内田 清之助	75 非凡なる凡人	国木 田独歩
24 福沢諭吉	奥野 信太郎	50 日本動物記	今西 錦司	76 正義派	志賀 直哉
25 レオナルド・ダヴィンチ	勝見 勝	51 洪水の話	安芸 敏一	77 友情	武者小路 実篤
26 昆虫と暮らして	ファール	52 山はどうしてできるか	大塚 弥之助	78 少年の日	坪田 譲治
27 ベートーベン	黒沢 隆朝	53 21世紀への階段	科学技術庁	79 のんちゃん雲にのる	石井 桃子
28 地図の話	武藤 勝彦			80 恩讐の彼方に	菊地 寛
〔3〕 社 会 (4)		〔7,8〕 芸術・語学 (7)		81 トム・ソーヤの冒険	トウエーン
29 人間の尊さを守ろう	吉野 源三郎	54 エヴェレストをめざして	ジョン ハント	82 若草物語	オルコット
30 民主主義のはなし	成能 通孝	55 オリンピックの話	鈴木 良徳	83 宝 島	ステイヴンソン
31 子供の歴史	児童文学者協会	56 バレーボール	前田 豊	84 レ・ミゼラブル	ユーゴー
32 などとことわざ	柳 田 国男	57 バスケットボール	牧山 圭秀	85 アンクルトムの小屋	ストウ
〔4〕 科学・理科 (21)		58 登山教室	海野 良治	86 アンデルセン童話集	アンデルセン
33 数学物語	矢野 健太郎	59 雪に生きる	猪谷 六合雄	87 クリスマス・キャロル	デイケンズ
34 ニューパズル	藤村 幸三郎	60 ことばの四季	金田 一春彦	88 あしながおじさん	ウエブスター
35 数に語らせる	増山 元三郎	〔9〕 文 学 (40)		89 クオレ物語	アミーチス
36 海流の話	日高 孝次	61 坊ちやん	夏目 漱石	90 ガリヴァー旅行記	スウィフト
37 雷の話	中谷 宇吉郎	62 三四郎	"	91 にんじん	ルナール
38 宇 宙	鍋木 政岐	63 路傍の石	山本 有三	92 ロビンソン・クルーソー	デフォー
39 電灯の話	小林 秋男	64 真実一路	"	93 アンネの日記	フランクアンネ
40 蚊のいない国	細井 輝彦	65 次郎物語	下村 湖人	94 ふたりのロッテ	ケストナー
41 星座と伝説	山本 一清	66 山椒大夫・高瀬舟	森 鷗外	95 赤毛のアン	モンゴメリー
42 金属の話	飯高 一郎	67 二十四のひとみ	壺井 栄	96 こぐま星座 上下	ムサトフ
43 脳の生活物語	ルイセンコ	68 鼻・くもの糸	芥川 竜之介	97 ナップス先生さようなら	ヒルトル
44 日本の稲	松尾 幸嶺	69 風の又三郎	宮沢 賢治	98 シエクスピア物語	ラム
45 化学の学校	オストヴァルト	70 啄木歌集	石川 啄木	99 森は生きている	マルシャーク
46 おもしろい地球の化学	フェルスマン	71 一房のぶどう	有島 武郎	100 シヤロックホームズの冒険	コナン Doyle
		72 破 戒	島崎 藤村		

良 書 百 選 (高校用)

書 名	著 者	書 名	著 者	書 名	著 者
〔1〕 哲学・宗教 (15)		28 ベートーベンの生涯	ロマンローラン	53 音楽を語る	野村 光一
1 ものの見方について	笠 信太郎	29 南極越冬記	西郷 栄三郎	54 日本文の再発見	ブルノー・タウト
2 哲学入門	三木 清	30 昭和史	遠山 茂樹	55 印象派時代	福島 繁太郎
3 近代の思想	高桑 純夫	〔3〕 社会科学 (5)		56 ロダンの言葉	成田 重郎
4 人生論ノート	三木 清	31 社会科学入門	高島 善哉	57 古寺巡礼	和辻 哲郎
5 自由と規律	池田 潔	32 資本主義経済の歩み	ヒューバーマン	58 歌舞伎手帖	戸板 康二
6 現代仏教入門	増谷 文雄	33 経済学入門	土方 成美	59 エヴェレスト登攀記	モラ 良
7 親 鸞	亀井 勝一郎	34 社会思想史	猪木 正道	60 登山教室	海野 良治
8 聖書入門	山谷 省吾	35 風 土	和辻 哲郎	61 KWAIDAN	L. HEARN
9 ギリシヤ神話	呉 茂一	〔4〕 自然科学 (17)		62 TALES FROM SHAKESPEARE	C. LAMB
10 愛と認識の発露	倉田 百三	36 地球の伝説	ガモウ 全集	63 日本語	金田 一春彦
11 三太郎日記	阿部 次郎	37 太陽の誕生と死	"	〔9〕 文 学 (37)	
12 孔 子	貝塚 茂樹	38 生命の国のトムキンス	"	64 門	夏目 漱石
13 きけわたつみの声	戦没 学生手記	39 不思議の国のトムキンス	"	65 それから	"
14 東洋人の発言	中村 元	40 一二三……無限大	"	66 心	"
15 エミール (少年時代)	ル ソ ー	41 ガモフ全集別巻		67 河 童	芥川 竜之介
〔2〕 歴史・地誌 (15)		42 化学繊維	井本 稔	68 五重塔	幸田 露伴
16 世界の歴史	毎日 新聞	43 物理学入門	武谷 三男	69 たけくらべ・にごりえ	樋口 一葉
17 物語 日本史	"	44 人類の起源	清野 謙次	70 暗夜行路	志賀 直哉
18 明日への歴史	林 健太郎	45 百万人の数学	ホグベン	71 土	長塚 節
19 世界の歩み	"	46 幾何の生い立ち成り立ち	橋本 純次	72 出家とその弟子	倉田 百三
20 纏足を解いた中国	バーチエ	47 霧の発見	吉田 洋一	73 雁	森 鷗外
21 日本古代文化	和辻 哲郎	48 地球の歴史	井 尻 正二	74 山しよう魚	井 伏 鱒二
22 漢の武帝	吉川 幸次郎	49 日本列島	"	75 武蔵野	国木 田独歩
23 キューリー夫人伝	エーヴキューリー	50 物とはなにか	ブラツク	76 浮雲	二葉亭 四迷
24 わが思想の生活より	シュヴアイツァー	51 現代化学読本	白井 俊明	77 細雪	谷崎 潤一郎
25 ダーウィン伝	駒井 卓	52 自然と人間とのたたかい	イ リ ン	78 楼 蘭	井上 靖
26 イエスの生涯	シュヴアイツァー	〔7,8〕 芸術・語学 (11)		79 夜明け前	島崎 藤村
27 ミケランジェロ	羽 仁 五郎	53 ビルマの堅壁	竹山 道雄	80 狭き門	ジ ー ド
		54 夜あけ朝あけ	住井 才久	81 ジェン・エア	ブロンテ

学校図書館の奉仕活動の実践

82 若きヴェルテルの悩み	ゲ ー テ	89 アンナカレニナ	トルストイ	96 父と子	ツルゲーネフ
83 ジャン・クリストフ	ロマン ロラン	90 チポー家の人々	デュガール	97 ハムレット	シェクスピア
84 女の一生	モーパッサン	91 みせられたる魂	ロマン ロラン	98 ファウスト	ゲ ー テ
85 車輪の下	ヘ ツ セ	92 赤と黒	スタンダール	99 阿Q正伝	魯 迅
86 嵐が丘	ブロンテ	93 デavid・カッツパーフィールド	デイケンズ	100 怒りのぶどう	スタインベック
87 罪と罰	ドストエフスキー	94 レ・ミゼラブル	ユ ー ゴ ー		
88 復活	トルストイ	95 ドン・キホーテ	セルヴァンテス		

推せん学習参考書目録

◇ 英 語	(特)………特 徴	(対)………対象学年	(使)………使い 方	(難)………難 易
1 田崎 清忠 中学一年英語学習の友 大修館 ¥190 (特)よくまとめてあつて、楽しみながら勉強できる (対)中1 (使)家庭での復習、総まとめ (難)普通				
2 池永 勝雅 中学一年生の英語の先生 昇竜堂 ¥250 (特)基本文型の説明がよく、各基本題の最後に精選された問題が豊富にある (対)中1 (使)家庭での復習総まとめ (難)普通				
3 池永 勝雅 中学二年生の英語の先生 昇竜堂 ¥250 (特)基本文型の説明がよく行われて文法の重要事項が基本文と関係させてまとめられてあり、精選された問題が豊富にある (対)中2 (使)復習総まとめ (難)普通				
4 池永 勝雅 中学三年生の英語の先生 昇竜堂 ¥250 (特)基本文型の説明がよく行われて文法の重要事項が基本文と関係させてまとめられてあり、精選された問題が豊富にある (対)中3 (使)総まとめ高校受験準備 (難)普通				
5 鈴木 栄一 わかりやすい英文法一初級用 黎明書房 ¥55 (特)説明が簡潔、練習に重点が置いてある (対)中1,2 (使)教科書と併行して自習用 (難)普通				
6 鈴木 栄一 わかりやすい英文法中級コース 黎明書房 ¥55 (特)簡潔に中学英語学習上必要な英文法上の基礎知識が説明してある (対)中3,高1 (使)総まとめ高校進学実力養成 (難)普通				
7 梶木 隆一 英語の基礎 旺文社 ¥200 (特)学習の要点「基礎事項」が明示してあるので急所をとらえた学習が出来、解説、例文はやさしく親しみやすい (対)高1 (使)中学英語の総復習、高校英語基礎養成 (難)普通				
8 竜口直太郎 公式中心英文解釈の基礎 評論社 ¥160 (特)解説が非常にわかりやすく関係代名詞比較等が公式中心によくまとめている (対)高1 (使)読解力の基礎養成 (難)普通				
9 竜口直太郎 高等英文解釈 評論社 ¥350 (特)解釈の基礎から応用へ文法中心に合理的な実力の養成に適し、関係名詞、条件文句、比較問題に特に重点が置いてあり説明が明快 (対)高2,3 (使)読解力の養成、大学受験準備用 (難)普通				
10 荒牧 鉄雄 現代英文読解法 三省堂 ¥300 (特)日英語を比較しながら、英文の特徴や講文、形式を説いている、語句のわかり具合、考え方の筋道を明示している (対)高2,3 (使)読解力の養成準備用 (難)普通				
11 山崎 貞 新々英文解釈研究 研究社 ¥350 (特)英文読解に必要な語形式が非常に細かく説明してある (対)高2,3 (使)大学受験準備用 (難)普通				
12 原 仙作 英文標準問題精講 旺文社 ¥120 (特)文構造の理解を容易にするために、文の解剖図解がしてある (対)高2,3 (使)読解力の養成大学受験準備用 (難)易				
13 堀江 清弥 英語構文公式の新研究 清水書院 ¥350 (特)重要公式が殆ど全部集めてある (対)高2,3 (使)読解力の養成 (難)普通				
14 岩田 一男 新英文法 三省堂 ¥280 (特)説明が簡潔、明確で標準的な練習問題が選んである (対)高2,3 (使)文法知識の養成大学受験準備用 (難)普通				
15 山崎 貞 新自修英文典 研究社 ¥350 (特)高校に必要な文法事項が殆ど収まっている (対)高1,2,3 (使)文法辞典として (難)普通				

16 成田清寿・清成孝 絶対英文法 研教書院 ¥420 (特)高校に必要な文法事項が殆ど収まっていて、読書のための文法に重点がおかれている (対)高1,2,3 (使)文法辞典として (難)普通				
17 小川 芳男 高等英文法 有精堂 ¥350 (特)学校文法を尊重しつつ記述文法の立場も合わせ考えられている (対)高3 (使)文法知識の総まとめ、受験準備用、文法辞典として (難)やや難				
18 佐々木高政 英文構成法 金子書房 ¥230 (特)いかなる語をいかに配置したら英語として正しい文になるかという点について系統立つた説明と適切練習問題に富む (対)高2,3 (難)やや難				

◇ 数 学	(特)………特 徴	(対)………対象学年	(使)………使い 方	(難)………難 易
1 小林 善一 中学Aクラスの数学 一年用 昇竜堂 ¥250 (特)説明事項がくわしくかつ正確であり問題の種類が豊富であるため生徒には親しみ易い (対)中1 (使)予習、復習用 (難)普通				
2 小林 善一 中学Aクラスの数学 二年用 昇竜堂 ¥250 (特)説明事項がくわしくかつ正確であり問題の種類が豊富であるため生徒には親しみ易い (対)中2 (使)予習、復習用 (難)普通				
3 小林 善一 中学Aクラスの数学 三年用 昇竜堂 ¥250 (特)説明事項がくわしくかつ正確であり問題の種類が豊富であるため生徒には親しみ易い (対)中3 (使)予習、復習用 (難)普通				
4 岩切 晴二 新制代数初歩 培風館 ¥240 (特)中学の代数をまとめ、高校の数I代数の基礎を重点的に学習するのに便利である、特に数学を得意とする者による (対)中3 (使)高校の数Iへの入門書 (難)難				
5 野田 真 最新中学数学 法文社 ¥230 (特)まとめの解説が分りやすく、練習問題はやさしいものから難しいものにもすましている (対)中3 (使)中学の総まとめ (難)普通				
6 橋本 純次 チャート式 数学I代数 数研社 ¥295 (特)問題の選択、説明に工夫がなされている (対)高1 (使)数Iの復習と将来への準備 (難)やや難				
7 橋本 純次 チャート式 数学I幾何 数研社 ¥320 (特)問題の選択、説明に工夫がなされている (対)高全 (使)復習及び受験用 (難)やや難				
8 橋本 純次 チャート式 数学II 数研社 ¥270 (特)問題の選択、説明に工夫がなされている (対)高2,3 (使)復習及び受験用 (難)やや難				
9 橋本 純次 チャート式 数学III 数研社 ¥290 (特)問題の選択、説明に工夫がなされている (対)高3 (使)復習及び実験用 (難)やや難				
10 橋本 純次 チャート式 数学I II 数研社 ¥330 (特)問題の選択、説明に工夫がなされている (対)高全 (使)復習及び実験用 (難)やや難				
11 岩切 晴二 数学I 精義 幾何編 培風館 ¥280 (特)範例、問題が精選されている、説明簡潔 (対)高全 (使)復習及び受験用 (難)難				
12 岩切 晴二 数学I 精義 代数編 培風館 ¥280 (特)範例、問題が精選されている、説明簡潔 (対)高全 (使)復習及び受験用 (難)難				
13 岩切 晴二 数学II 精義 培風館 ¥280 (特)範例、問題が精選されている、説明簡潔 (対)高全 (使)復習及び受験用 (難)難				

一 般 研 究

14 岩切 晴二 数学 III 解説 (特) 範例, 問題が精選されている, 説明簡潔 (使) 復習及び受験用	培風館 ¥ 280 (対) 高全 (難) 難	16 小林 善一 詳解 数学 II (特) 説明がくわしく, 易しい問題を反復練習する (使) 復習用	昇竜堂 ¥ 220 (対) 高 2 (難) 易
15 小林 善一 詳解 数学 I (特) 説明がくわしく, 易しい問題を反復練習する (使) 復習用	昇竜堂 ¥ 220 (対) 高 1 (難) 易		

母親文庫目録

請求番号	著 者	書 名	請求番号	著 者	書 名
017	亀井勝一郎 他	青年期の読書指導	371	岡本 重雄 他	社会と職業生活
019	森 信三 他	読書の伴侶	〃	〃	青年集団
019	石 井 桃 子	子どもの読書の導きかた	〃	野 口 巖 雄	十代の相談室—中学高校生の心理としつけ
141	石川 行男 他	性格の異常と指導	〃	霜 田 静 志	叱らぬ生活と教育
〃	〃	性格の教育	〃	鈴木 清 他	道徳性指導の心理
143	山 下 俊 郎	児童心理学—子供の心はいかに発達するか	〃	波多野実治 他	母と幼児—わが子の導きかた
〃	岡 本 重 雄	青年期心理学	375	近 藤 勝	中学生の喜びと悲しみ
〃	依 田 新	青年の心理	376	天 野 貞 祐	高校生のために
144	〃	家族の心理	〃	上 田 平 雄	ハイ・ティーン—青春の道標—
371	波多野勤子	幼 年 期	378	中野 佐三 他	できない子供の教育
〃	〃	青 年 期	〃	牛 島 義 友	不良化傾向の早期発見
〃	A.S.マカレンコ	愛と規律の家庭教育	379	鈴 木 道 太	親と子の新しい規律
〃	霜 田 静 志	叱らぬ教育の実践—子供への理解	〃	久 保 田 浩	母と子の手帖
〃	阪本 一郎 他	高校生の生活指導	〃	石 田 光	マスコミは子供を変える
〃	岡本 重雄 他	悩みと反抗	〃	村 井 実	かたにの本—悪い子供にするには—